

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2019年6月6日(06.06.2019)



(10) 国際公開番号

WO 2019/106982 A1

(51) 国際特許分類:

CIID 1/14 (2006.01) *A61Q 19/10* (2006.01)
A61K 8/46 (2006.01) *C07C 303/42* (2006.01)
A61Q 5/02 (2006.01) *C07C 309/20* (2006.01)

〒6408580 和歌山県和歌山市湊 1 3 3 4 花
王株式会社研究所内 Wakayama (JP).

(21) 国際出願番号: PCT/JP2018/038284

(22) 国際出願日: 2018年10月15日(15.10.2018)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2017-228899 2017年11月29日(29.11.2017) JP

(71) 出願人: 花王株式会社(**KAO CORPORATION**)
[JP/JP]; 〒1038210 東京都中央区日本橋茅場
町 1 丁目 1 4 番 1 0 号 Tokyo (JP).

(72) 発明者: 澤瀬 加苗(**SAWASE, Kanae**); 〒6408580
和歌山県和歌山市湊 1 3 3 4 花王株式会社
研究所内 Wakayama (JP). 堀 寛(**HORI, Hiroshi**);
〒6408580 和歌山県和歌山市湊 1 3 3 4 花
王株式会社研究所内 Wakayama (JP). 栢原 順
平(**KAYAHARA, Junpei**); 〒6408580 和歌山県
和歌山市湊 1 3 3 4 花王株式会社研究所内
Wakayama (JP). 野村 真人(**NOMURA, Masato**);

(74) 代理人: 特許業務法人 ユニウス国際特許事
務所(**UNIUS PATENT ATTORNEYS OFFICE**);
〒5320011 大阪府大阪市淀川区西中島 5 丁目 1
3-9 新大阪MTビル 1 号館 2 階 Osaka (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保
護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ,
BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH,
CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO,
DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT,
HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, KE, KG, KH,
KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY,
MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ,
NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT,
QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL,
SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA,
UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保
護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS,
MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM,
ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ,
TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ,
DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT,

(54) **Title:** INTERNAL OLEFIN SULFONATE COMPOSITION AND METHOD FOR PRESERVING INTERNAL OLEFIN SULFONATE

(54) 発明の名称: 内部オレフィンスルホン酸塩組成物、及び内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法

(57) **Abstract:** Provided are an internal olefin sulfonate composition which shows excellent hue stability and excellent aroma stability even when preserved for a long period of time, and a method for preserving an internal olefin sulfonate. The internal olefin sulfonate composition according to the present invention comprises an internal olefin sulfonate, one or more kinds of alkaline agents selected from among an alkali metal hydroxide and an alkaline earth metal hydroxide and water, wherein the content of the alkaline agents is 0.2-15 mmol inclusive per mol of the internal olefin sulfonate. The method according to the present invention for preserving an internal olefin sulfonate comprises mixing the internal olefin sulfonate at least with an alkaline agent to give a composition wherein the content of the alkaline agent is 0.2-15 mmol inclusive per mol of the internal olefin sulfonate.

(57) 要約: 本発明は、長期間保存した場合でも色相と匂いの安定性に優れる内部オレフィンスルホン酸塩組成物、及び内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法を提供する。本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、内部オレフィンスルホン酸塩、アルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤及び水を含む、前記アルカリ剤の含有量が、前記内部オレフィンスルホン酸塩 1 mol に対して 0.2 mmol 以上 15 mmol 以下である。また、本発明の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法は、内部オレフィンスルホン酸塩と、少なくともアルカリ剤とを混合して、前記アルカリ剤の含有量が前記内部オレフィンスルホン酸塩 1 mol に対して 0.2 mmol 以上 15 mmol 以下である組成物とするものである。

LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS,
SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM,
GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類：

- 一 国際調査報告（条約第21条(3)）

明 細 書

発明の名称：

内部オレフィンスルホン酸塩組成物、及び内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法

技術分野

[0001] 本発明は、洗浄剤の基剤として有用な内部オレフィンスルホン酸塩組成物、及び内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法に関する。

背景技術

[0002] 従来、アニオン性界面活性剤、特にアルキル硫酸塩、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル硫酸塩は、洗浄力及び起泡力に優れていることから家庭用及び工業用の洗浄成分として広く用いられている。アニオン性界面活性剤の一つとして、オレフィンスルホン酸塩、特に二重結合をオレフィンの末端ではなく内部に有する内部オレフィンを原料として得られる内部オレフィンスルホン酸塩が報告されている。

[0003] 前記内部オレフィンスルホン酸塩は、一般に内部オレフィンを三酸化硫黄ガスと反応させてスルホン化し、得られた内部オレフィンスルホン化物を中和後、更に加水分解することにより得られる。近年、内部オレフィンスルホン酸塩を配合した洗浄剤において、良好なすすぎ性などの特性も見出されており、今後も様々な場面での使用が期待できる。

[0004] 例えば、特許文献1では、洗浄時の泡立ち、すすぎ時のすすぎ性、乾燥後の毛髪のツヤ、の全てにおいて優れた性能を有する水性毛髪洗浄剤を提供することを目的として、

次の成分（A）、（B）及び（C）並びに水を含有し、水で20質量倍に希釈したときの25℃におけるpHが2～5である水性毛髪洗浄剤が提案されている。

（A）内部オレフィンのスルホン酸化物

（B）特定の有機溶剤

(C) ヒドロキシモノカルボン酸及びジカルボン酸からなる群より選択される一又は二以上の有機カルボン酸

[0005] また、特許文献2では、短時間の使用であっても高い殺菌効果を発現し、かつ洗浄時の泡立ち、泡質、すすぎ性に優れた殺菌洗浄剤組成物を提供することを目的として、

(a) 成分：炭素数12以上18以下の内部オレフィンスルホン酸塩を0.5質量%以上20質量%以下、

(b) 成分：油溶性殺菌剤を0.1質量%以上1.0質量%以下、並びに

(c) 成分：Log Pが2.0以上4.0以下である溶剤を0.25質量%以上7.0質量%以下含有し、25℃におけるpHが4.7以上7.5以下である殺菌洗浄剤組成物が提案されている。

[0006] また、特許文献3では、洗浄時には豊かな泡立ちと洗浄時の泡の持続性を示すが、すすぎ時には瞬時に泡が消え、少量の水ですすぎが完了する手洗いう食器洗浄剤を提供することを目的として、

下記(a)成分を1質量%以上、50質量%以下、下記(b)成分を0.5質量%以上、5質量%以下、及び、下記(c)成分を含有し、(c)成分／(a)成分の質量比が0.01以上、1以下である、手洗いう食器洗浄剤組成物が提案されている。

(a) 成分：炭素数8以上、24以下の内部オレフィンスルホン酸塩

(b) 成分：炭素数8以上、22以下の脂肪酸又はその塩

(c) 成分：下記(c1)、(c2)、及び(c3)から選ばれる1種以上の化合物

(c1)：炭素数8以上、22以下のアルキル基又はアルケニル基を有するアルキル又はアルケニルアルカノールアミド

(c2)：炭素数7以上、21以下のアルキル基又はアルケニル基を有する脂肪酸アミドプロピルベタイン

(c3)：炭素数8以上、22以下のアルキル基又はアルケニル基を有するポリオキシエチレンアルキル又はアルケニルアミン

先行技術文献

特許文献

[0007] 特許文献1：特開 2 0 1 4 － 7 6 9 8 3 号公報

特許文献2：特開 2 0 1 5 － 1 7 8 5 4 8 号公報

特許文献3：特開 2 0 1 6 － 1 4 7 9 2 8 号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0008] しかし、従来の内部オレフィンスルホン酸塩を含む組成物を長期間保存すると、色相が悪くなったり、匂いが強くなる場合があった。

[0009] 本発明は、長期間保存した場合でも色相と匂いの安定性に優れる内部オレフィンスルホン酸塩組成物、及び内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法を提供するものである。

課題を解決するための手段

[0010] 内部オレフィンスルホン酸塩を含む組成物を長期間保存すると、色相が悪くなったり、匂いが強くなる原因は明らかではないが、保存中に組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩等が酸化、分解、結合、あるいは重合等することが原因であると考えられる。そして、本発明者らは、内部オレフィンスルホン酸塩を含む組成物の pH を制御することにより、又は内部オレフィンスルホン酸塩を含む組成物中のアルカリ剤の含有量を制御することにより、長期間保存した場合でも色相と匂いの安定性に優れる内部オレフィンスルホン酸塩組成物が得られることを見出した。

[0011] すなわち、本発明は、内部オレフィンスルホン酸塩及び水を含むし、前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が 1 0 質量%以下である場合、又は前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が 1 0 質量%超であるときには、その含有量が 1 0 質量%になるように水で調整した場合の 2 5℃における pH が、8. 5 以上 1 1. 0 以下である、内部オレフィンスルホン酸塩組成物、に関する。

[0012] また、本発明は、内部オレフィンスルホン酸塩、アルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤及び水を含有し、前記アルカリ剤の含有量が、前記内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して０．２ｍｍｏｌ以上１５ｍｍｏｌ以下である、内部オレフィンスルホン酸塩組成物、に関する。

[0013] また、本発明は、内部オレフィンスルホン酸塩及び水を含有する組成物において、

前記組成物中の前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が１０質量％以下である場合には、前記組成物の２５℃におけるｐＨを８．５以上１１．０以下に調整し、

前記組成物中の前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が１０質量％超である場合には、その含有量が１０質量％になるように水で希釈した希釈液の２５℃におけるｐＨが８．５以上１１．０以下になるように前記組成物のｐＨを調整する、内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法、に関する。

[0014] また、本発明は、内部オレフィンスルホン酸塩と、少なくともアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤とを混合して、前記アルカリ剤の含有量が前記内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して０．２ｍｍｏｌ以上１５ｍｍｏｌ以下である組成物とする、内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法、に関する。

発明の効果

[0015] 本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、長期間保存した場合でも色相と匂いが変化しにくく、安定性に優れるものである。そのため、本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、各種洗浄剤の基剤として有用である。また、本発明の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法によれば、内部オレフィンスルホン酸塩の品質を長期間安定化させることができる。

発明を実施するための形態

[0016] 本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、内部オレフィンスルホン酸塩及び水を含有し、前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が１０質量

%以下である場合、又は前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%超であるときには、その含有量が10質量%になるように水で調整した場合の25℃におけるpHが、8.5以上11.0以下である。なお、内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%超であるときに、その含有量が10質量%になるように水で調整するのは、内部オレフィンスルホン酸塩の濃度が高くなると内部オレフィンスルホン酸塩組成物が高粘度になり、前記組成物のpHを測定し難くなるためである。

[0017] また、本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、内部オレフィンスルホン酸塩、アルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤及び水を含むし、前記アルカリ剤の含有量が、前記内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して0.2mmol以上15mmol以下である。

[0018] 前記内部オレフィンスルホン酸塩は、公知のものを特に制限なく使用することができ、例えば、原料である内部オレフィン（二重結合をオレフィン鎖の内部に有するオレフィン）をスルホン化、中和及び加水分解することにより得られる。すなわち、内部オレフィンをスルホン化すると、定量的にβ-サルトンが生成し、β-サルトンの一部は、γ-サルトン、オレフィンスルホン酸へと変化し、更にこれらは中和・加水分解工程においてヒドロキシアルカンスルホン酸塩と、オレフィンスルホン酸塩へと転換する（例えば、J. Am. Oil Chem. Soc. 69, 39(1992)）。なお、かかる内部オレフィンとは、二重結合の位置が炭素鎖の1位に存在する、いわゆるα-オレフィンを微量に含有する場合も含む広義の意味である。ここで、得られるヒドロキシアルカンスルホン酸塩のヒドロキシ基は、炭素鎖の内部にあり、オレフィンスルホン酸塩の二重結合は炭素鎖の内部にある。また、得られる生成物は、主にこれらの混合物であり、またその一部には、炭素鎖の末端にヒドロキシ基を有するヒドロキシアルカンスルホン酸塩、又は炭素鎖の末端に二重結合を有するオレフィンスルホン酸塩が微量に含まれる場合もある。本発明では、これらの各生成物及びそれらの混合物を総称して内部オレフィンスルホン酸塩と

いう。なお、ヒドロキシアルカンスルホン酸塩を内部オレフィンスルホン酸塩のヒドロキシ体（以下、HASともいう。）、オレフィンスルホン酸塩を内部オレフィンスルホン酸塩のオレフィン体（以下、IOSともいう。）ともいう。

[0019] 前記内部オレフィンスルホン酸塩の炭素数は、洗浄性能等の観点から、好ましくは10以上、より好ましくは12以上、更に好ましくは14以上、より更に好ましくは16以上であり、また、好ましくは24以下、より好ましくは22以下、更に好ましくは20以下、より更に好ましくは18以下である。内部オレフィンスルホン酸塩は1種で用いてもよく、炭素数が異なるものを2種以上併用してもよい。

[0020] 前記内部オレフィンスルホン酸塩が、ヒドロキシアルカンスルホン酸塩とオレフィンスルホン酸塩を含む混合物である場合、ヒドロキシアルカンスルホン酸塩の含有量とオレフィンスルホン酸塩の含有量の質量比（ヒドロキシ体／オレフィン体）は、洗浄性能と泡立ち性能の観点から、好ましくは40／60～95／5、より好ましくは60／40～90／10、更に好ましくは70／30～88／12、より更に好ましくは75／25～86／14である。なお、ヒドロキシアルカンスルホン酸塩の含有量とオレフィンスルホン酸塩の含有量の質量比は、HPLCによりヒドロキシアルカンスルホン酸塩とオレフィンスルホン酸塩を分離した後、実施例に記載の方法により測定することができる。

[0021] 前記内部オレフィンスルホン酸塩は、生産コストの低減及び生産性向上の観点から、スルホン酸基の位置が2位であるものを好ましくは6.8質量%以上、より好ましくは8.6質量%以上、更に好ましくは11.3質量%以上、より更に好ましくは13.1質量%以上含み、また、洗浄性能と泡立ち性能の観点から、スルホン酸基の位置が2位であるものを好ましくは24.9質量%以下、より好ましくは24.0質量%以下、更に好ましくは23.1質量%以下、より更に好ましくは22.2質量%以下、より更に好ましくは21.3質量%以下、より更に好ましくは20.4質量%以下、より更に

好ましくは19.5質量%以下、より更に好ましくは18.6質量%以下含む。スルホン酸基の位置が2位である内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、ガスクロマトグラフィーにより測定することができる。

[0022] 前記内部オレフィンスルホン酸塩は、生産コストの低減及び生産性向上の観点から、炭素鎖の末端に二重結合を有するオレフィンスルホン酸塩を好ましくは0.01質量%以上、より好ましくは0.1質量%以上、更に好ましくは0.5質量%以上、より更に好ましくは1.0質量%以上含み、また、洗浄性能と泡立ち性能の観点から、炭素鎖の末端に二重結合を有するオレフィンスルホン酸塩を好ましくは10質量%以下、より好ましくは5.3質量%以下、更に好ましくは5.0質量%以下、より更に好ましくは4.7質量%以下、より更に好ましくは4.4質量%以下、より更に好ましくは4.1質量%以下、より更に好ましくは3.7質量%以下、より更に好ましくは3.4質量%以下、より更に好ましくは3.1質量%以下含む。

[0023] 前記内部オレフィンスルホン酸塩は、上記のような公知の製造方法、例えば、内部オレフィンを実行スルホン化、中和及び加水分解することにより製造することができる。以下、各工程について具体的に説明する。

[0024] [スルホン化工程]

スルホン化工程は、内部オレフィンと三酸化硫黄とを反応させてスルホン化物を得る工程である。

[0025] 内部オレフィン、前記内部オレフィンスルホン酸塩を得るために、二重結合位置が2位であるものを好ましくは10質量%以上、より好ましくは13質量%以上、更に好ましくは18質量%以上、より更に好ましくは21質量%以上含み、また、好ましくは42質量%以下、より好ましくは41質量%以下、更に好ましくは39質量%以下、より更に好ましくは37質量%以下、より更に好ましくは36質量%以下、より更に好ましくは34質量%以下、より更に好ましくは33質量%以下、より更に好ましくは31質量%以下含む。

[0026] 内部オレフィン、公知の方法、例えば、国際公開第2011/0527

32号に記載の方法により製造することができる。

[0027] 三酸化硫黄は特に制限されないが、反応性を向上させる観点から、三酸化硫黄ガスを用いることが好ましい。

[0028] 内部オレフィンに対する三酸化硫黄の反応モル比は、不純物量を低減する観点から、好ましくは0.9以上、より好ましくは0.95以上、更に好ましくは0.98以上であり、また、不純物量を低減し、過剰反応を抑制する観点から、好ましくは1.1以下、より好ましくは1.05以下、更に好ましくは1.03以下である。

[0029] [中和工程]

中和工程は、得られたスルホン化物とアルカリ剤とを反応させて中和生成物を得る工程である。

[0030] 中和に使用するアルカリ剤としては、例えば、無機アルカリ化合物が挙げられる。無機アルカリ化合物としては、例えば、水酸化ナトリウム、水酸化カリウムなどのアルカリ金属水酸化物；水酸化マグネシウム、水酸化カルシウムなどのアルカリ土類金属水酸化物；炭酸ナトリウム、炭酸カリウムなどのアルカリ金属炭酸塩が挙げられる。これらは1種用いてもよく、2種以上を併用してもよい。

[0031] アルカリ剤は、入手性及び経済性の観点から、好ましくはアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上、より好ましくはアルカリ金属水酸化物、更に好ましくは水酸化ナトリウム又は水酸化カリウムである。

[0032] アルカリ剤は、固体又は水溶液の形態で使用される。取扱い及び生産性の観点から、水溶液であることが好ましい。

[0033] アルカリ剤の添加量は、前記スルホン化物の理論酸価に対して、好ましくは1.02モル倍以上、より好ましくは1.03モル倍以上、更に好ましくは1.04モル倍以上であり、また、好ましくは1.5モル倍以下、より好ましくは1.3モル倍以下、更に好ましくは1.1モル倍以下である。

[0034] 中和工程の処理温度は、反応性を向上させる観点から、好ましくは0℃以

上、より好ましくは 10°C 以上、更に好ましくは 20°C 以上であり、また、副反応を抑制する観点から、好ましくは 60°C 以下、より好ましくは 40°C 以下である。

[0035] 中和工程の処理時間は、反応を完結させる観点から、好ましくは5分以上、より好ましくは15分以上、更に好ましくは30分以上であり、また、経済性等の観点から、好ましくは5時間以下、より好ましくは2時間以下、更に好ましくは90分以下である。

[0036] 〔加水分解工程〕

加水分解工程は、得られた中和生成物を加水分解する工程である。

[0037] 加水分解工程において、加水分解時の温度は、反応性を向上させる観点から、好ましくは 120°C 以上、より好ましくは 140°C 以上、更に好ましくは 160°C 以上であり、また、生成物の分解を抑制する観点から、好ましくは 220°C 以下、より好ましくは 180°C 以下である。

[0038] 加水分解工程の処理時間は、反応を完結させる観点から、好ましくは30分以上、より好ましくは45分以上であり、また、生産性を向上させる観点から、好ましくは4時間以下、より好ましくは3時間以下、更に好ましくは2時間以下、より更に好ましくは90分以下である。

[0039] 加水分解工程によって内部オレフィンスルホン酸塩を含む水溶液が得られる。必要により、脱塩、脱色、及び還元等の処理を行ってもよい。また、抽出操作等を行うことにより、内部オレフィンスルホン酸塩を含む水溶液から内部オレフィンスルホン酸塩を得てもよい。

[0040] 本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、アルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤を含有する。前記アルカリ剤は、入手性及び経済性の観点から、好ましくはアルカリ金属水酸化物、より好ましくは水酸化ナトリウム又は水酸化カリウムである。

[0041] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、保存時の色相と匂いの安定性の観点から、内部オレフィンスルホン酸塩 1 m o

l に対して、0.2 mmol 以上であり、好ましくは 1.5 mmol 以上、より好ましくは 2.5 mmol 以上、更に好ましくは 5 mmol 以上であり、また、15 mmol 以下であり、好ましくは 10 mmol 以下である。アルカリ剤の含有量は、必要により、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物に内部オレフィンスルホン酸塩又はアルカリ剤を添加することにより目的の範囲に調整することができる。なお、内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ剤の含有量は、中和滴定により求めることができる。

[0042] また、本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が 10 質量%以下である場合、又は前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が 10 質量%超であるときには、その含有量が 10 質量%になるように水で調整した場合の 25℃における pH を、8.5 以上 11.0 以下に調整するために、好ましくはアルカリ剤を含有する。アルカリ剤は特に制限されず、前記アルカリ剤であってもよく、別のアルカリ剤であってもよい。

[0043] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、水（イオン交換水など）を含有する。

[0044] 本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、液体（ペーストを含む）であり、その製造方法は特に限定されず、例えば、前記内部オレフィンスルホン酸塩を含む水溶液を用いて製造してもよく、前記内部オレフィンスルホン酸塩と水（イオン交換水など）と前記アルカリ剤等を混合して製造してもよい。

[0045] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、保存時の色相と匂いの安定性の観点から、好ましくは 10 質量%以上、より好ましくは 20 質量%以上、更に好ましくは 25 質量%以上、より更に好ましくは 30 質量%以上、より更に好ましくは 30 質量%超、より更に好ましくは 32 質量%以上、より更に好ましくは 36 質量%以上、より更に好ましくは 40 質量%以上であり、また、取扱い性の観点から、好ましくは 80 質量%以下、より好ましくは 70 質量%以下である。内部オレフ

インスルホン酸塩の含有量が前記範囲外の場合には、組成物中に水（イオン交換水など）を混合するか又は組成物を濃縮して内部オレフィンスルホン酸塩の含有量を調整すればよい。なお、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、流動電位法により求めることができる。

[0046] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水（イオン交換水など）の含有量は、前記各成分以外の残部となる量であることが好ましく、取扱い性の観点から、好ましくは17質量%以上、より好ましくは27質量%以上であり、また、保存時の色相と匂いの安定性の観点から、好ましくは89質量%以下、より好ましくは79質量%以下、更に好ましくは74質量%以下、より更に好ましくは68質量%以下、より更に好ましくは58質量%以下である。

[0047] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%以下である場合、又は前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%超であるときには、その含有量が10質量%になるように水（イオン交換水など）で希釈した場合の25℃におけるpHが、保存時の色相と匂いの安定性の観点から、好ましくは8.5以上、より好ましくは9.0以上、更に好ましくは9.4以上、より更に好ましくは9.8以上であり、また、好ましくは11.0以下、より好ましくは10.5以下である、前記pHは、例えば、前記アルカリ剤、及び下記の緩衝剤や酸を添加することによって調整することができる。

[0048] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、保存時の色相と匂いの安定性、及びpHを前記範囲内に保持する観点から、好ましくは緩衝剤を含有する。

[0049] 緩衝剤は特に制限されず、例えば、炭酸ナトリウム、炭酸カリウムなどの炭酸塩；炭酸水素ナトリウム、炭酸水素カリウムなどの炭酸水素塩；ホウ酸ナトリウム、ホウ酸カリウムなどのホウ酸塩；ケイ酸ナトリウム、ケイ酸カリウムなどのケイ酸塩などが挙げられる。これらは1種単独で用いてもよく、

2種以上を併用してもよい。これらのうち、入手性及び経済性の観点から、好ましくは炭酸塩、より好ましくは炭酸ナトリウムである。

[0050] 緩衝剤の含有量は、pHを前記範囲内に保持する観点から、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、好ましくは0.01質量部以上、より好ましくは0.05質量部以上、更に好ましくは0.1質量部以上であり、また、不純物量低減の観点から、好ましくは3.0質量部以下、より好ましくは2.5質量部以下、更に好ましくは2.0質量部以下、より更に好ましくは1.0質量部以下、より更に好ましくは0.5質量部以下である。

[0051] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物には、酸などの安定化剤を特に添加する必要はないが、アルカリ剤の含有量を調整し、pHを前記範囲内に調整するために、酸を添加してもよい。酸は、組成物中では酸塩として存在する。

[0052] 酸は特に制限されず、例えば、硫酸、塩酸、リン酸、ホウ酸などの無機酸；クエン酸、りんご酸、マレイン酸、フマル酸、コハク酸などの有機酸が挙げられる。これらは1種単独で用いてもよく、2種以上を併用してもよい。これらのうち、好ましくはクエン酸、リン酸、ホウ酸、より好ましくはクエン酸である。

[0053] 酸の配合量は、pHが前記範囲内になるように適宜調整すればよい。酸の配合量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、好ましくは10質量部以下、より好ましくは1質量部以下、更に好ましくは0.1質量部以下、より更に好ましくは0.01質量部以下である。

[0054] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、貯蔵安定性又は粘度調整の観点から、アニオン界面活性剤やノニオン界面活性剤を含有していてもよい。

[0055] アニオン界面活性剤としては、例えば、炭素数10～22のアルキル硫酸塩、炭素数10～22のアルケニル硫酸塩、炭素数10～22のポリオキシアルキレンアルキルエーテル硫酸塩、炭素数10～22のポリオキシアルキレンアルケニルエーテル硫酸塩、炭素数10～22のポリオキシアルキレンアルキルフェニルエーテル硫酸塩等の炭素数10～22の硫酸エステル塩；

炭素数 10～22 のスルホコハク酸アルキルエステル塩、炭素数 10～22 のポリオキシアルキレンスルホコハク酸アルキルエステル塩、炭素数 10～22 のアルカンスルホン酸塩、炭素数 10～22 のアシルイセチオネート、炭素数 10～22 のアシルメチルタウレート、炭素数 10～22 のアルキルスルホ酢酸等の炭素数 10～22 のスルホン酸塩；炭素数 10～22 の脂肪酸塩、炭素数 10～22 のポリオキシアルキレンアルキルエーテルカルボン酸塩、炭素数 10～22 のポリオキシアルキレンアルケニルエーテルカルボン酸塩、炭素数 10～22 のポリオキシアルキレンアルキルフェニルエーテルカルボン酸塩等の炭素数 10～22 のカルボン酸塩；炭素数 10～22 のアルキルリン酸塩、炭素数 10～22 のポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸塩等の炭素数 10～22 のリン酸エステル塩；アシルグルタミン酸塩、アシルアラニン塩、アシルグリシン塩、アシルサルコシン塩、アシルアルギニン塩等の炭素数 10～22 のアシル基を有するアミノ酸塩等が挙げられる。これらは 1 種単独で用いてもよく、2 種以上を併用してもよい。

[0056] ノニオン界面活性剤としては、例えば、炭素数 10～22 のポリオキシアルキレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビット脂肪酸エステル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、炭素数 10～22 のポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、炭素数 10～22 のポリオキシアルキレン（硬化）ヒマシ油等のポリアルキレングリコール型ノニオン界面活性剤；シヨ糖脂肪酸エステル、炭素数 10～22 のポリグリセリンアルキルエーテル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、炭素数 10～22 のアルキルグリコシド、アシル化アルキルグルカミド等の多価アルコール型ノニオン界面活性剤；脂肪酸アルカノールアミド等が挙げられる。なお、上記ノニオン界面活性剤の脂肪酸又はアシル基は炭素数 10～22 の脂肪酸を示す。具体的には、例えば、ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド、ヤシ油脂肪酸 N-メチルモノエタノールアミド等の脂肪酸モノアルカノールアミドが挙げられる。これらは 1 種単独で用いてもよく、2 種以上を併用してもよい。

。

[0057] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、貯蔵安定性を向上させるために、ハイドロトロップ剤を含有していてもよい。

[0058] ハイドロトロップ剤としては、例えば、トルエンスルホン酸、キシレンスルホン酸、クメンスルホン酸、及びこれらの塩（ナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、及びアミン塩など）などが挙げられる。これらは1種単独で用いてもよく、2種以上を併用してもよい。

[0059] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、貯蔵安定性又は粘度調整の観点から、溶剤を含有していてもよい。

[0060] 溶剤としては、例えば、エタノール、イソプロピルアルコール、エチレングリコール、プロピレングリコール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、グリセリン、イソプレングリコール、プロピレングリコールモノメチルエーテル、プロピレングリコールモノエチルエーテル、3-メチル-3-メトキシブタノール、フェノキシエタノール、フェニルグリコール、フェノキシイソプロパノール、ブチルジグリコール（ジエチレングリコールモノブチルエーテル）、ジブチレンジグリコール、及びベンジルアルコールなどが挙げられる。これらは1種単独で用いてもよく、2種以上を併用してもよい。

[0061] 前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、50℃で20日間保存前後の色相変化率が、好ましくは5%以下、より好ましくは3%以下、更に好ましくは2%以下である。

[0062] また、本発明の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法は、前記のように、内部オレフィンスルホン酸塩及び水を含有する組成物において、前記組成物中の前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%以下である場合には、前記組成物の25℃におけるpHを8.5以上11.0以下に調整し、前記組成物中の前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%超である場合には、その含有量が10質量%になるように水で希釈した希釈液の25℃におけるpHが8.5以上11.0以下になるように前記組成物

のpHを調整するものである。前記pHを、8.5以上11.0以下に調整することにより、内部オレフィンスルホン酸塩の保存安定性を向上させることができる。なお、内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%超であるときに、その含有量が10質量%になるように水で希釈するのは、内部オレフィンスルホン酸塩の濃度が高くなると内部オレフィンスルホン酸塩組成物が高粘度になり、前記組成物のpHを測定し難くなるためである。

[0063] また、本発明の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法は、前記のように、内部オレフィンスルホン酸塩と、少なくともアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤とを混合して、前記アルカリ剤の含有量が前記内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して0.2mmol以上15mmol以下である組成物とするものである。内部オレフィンスルホン酸塩と前記アルカリ剤とを混合して、前記アルカリ剤の含有量を前記範囲に調整した組成物とすることにより、内部オレフィンスルホン酸塩の保存安定性を向上させることができる。

[0064] 前記組成物中の各成分及びその含有量、ならびに前記組成物のpHは前記と同様であるため記載を省略する。

[0065] 本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、食器用洗浄剤や住居用洗浄剤等の硬質表面洗浄剤、衣料用洗浄剤、衣料用処理剤、衣料用柔軟剤、身体用洗浄剤、及び毛髪用洗浄剤などに配合される基剤として用いることができ、また、これらの製造のために使用することができる。

本発明の食器用洗浄剤は、例えば、プラスチック、ガラス、陶器、ステンレス、木、スポンジ、まな板、調理台、テーブル、及び椅子などの洗浄に用いられ、着色や匂い等が課題となる硬質表面の洗浄に好適に用いられ、好ましくはプラスチック、ガラス、陶器、スポンジ、まな板、調理台、テーブル、及び椅子の洗浄に用いられる。

本発明の住居用洗浄剤は、例えば、プラスチック、ガラス、陶器、ステンレス、木、紙、皮、ゴム、壁、フローリング、浴槽、洗面台、便器、及び窓などの洗浄に用いられ、着色や匂い等が課題となる硬質表面の洗浄に好適に

用いられ、好ましくはプラスチック、ガラス、陶器、紙、壁、フローリング、浴槽、及び便器などの洗浄に用いられる。

[0066] 食器用洗浄剤や住居用洗浄剤等の硬質表面洗浄剤、衣料用洗浄剤、衣料用処理剤、衣料用柔軟剤、身体用洗浄剤、及び毛髪用洗浄剤は、本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物と共に公知の成分、例えば、前記内部オレフィンスルホン酸塩以外の界面活性剤、及び補助剤などを含んでいてもよい。補助剤としては、例えば、増泡剤、消泡剤、ポリマー、油剤、親水性溶剤、シリコーン、保湿剤、保存料、粘度調節剤、防腐剤、抗菌剤、抗フケ剤、抗炎症剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、金属イオン封鎖剤、パール光沢剤、色素、香料、酵素、漂白剤、漂白活性化剤、キレート剤、水溶性塩類、多価陽イオン、及びpH調整剤などが挙げられる。前記補助剤は、用途に応じて1種又は2種以上用いられる。

[0067] 前記硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤中の界面活性剤（前記内部オレフィンスルホン酸塩を含む）の含有量は特に制限されないが、好ましくは0.5質量%以上、より好ましくは1.5質量%以上であり、また、好ましくは60質量%以下、より好ましくは30質量%以下である。

[0068] 前記硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤はpH調整剤（クエン酸など）を含有することが好ましい。前記硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤中のpH調整剤の含有量は特に制限されないが、好ましくは0.001質量%以上であり、また、好ましくは8質量%以下、より好ましくは5質量%以下である。

[0069] 以下に、本発明及び本発明の好ましい実施態様を示す。

<1>

内部オレフィンスルホン酸塩及び水を含む、前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%以下である場合、又は前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%超であるときには、その含有量が10質量%になるように水で調整した場合の25℃におけるpHが、8.5以上11.0以下である、内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

<2>

内部オレフィンスルホン酸塩、アルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤及び水を含み、前記アルカリ剤の含有量が、前記内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して0.2mmol以上1.5mmol以下である、内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

<3>

前記内部オレフィンスルホン酸塩の炭素数は、好ましくは10以上、より好ましくは12以上、更に好ましくは14以上、より更に好ましくは16以上であり、また、好ましくは24以下、より好ましくは22以下、更に好ましくは20以下、より更に好ましくは18以下である、<1>又は<2>に記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

<4>

前記内部オレフィンスルホン酸塩が、ヒドロキシアルカンスルホン酸塩とオレフィンスルホン酸塩を含む混合物である場合、ヒドロキシアルカンスルホン酸塩の含有量とオレフィンスルホン酸塩の含有量の質量比（ヒドロキシ体／オレフィン体）は、好ましくは40／60～95／5、より好ましくは60／40～90／10、更に好ましくは70／30～88／12、より更に好ましくは75／25～86／14である、<1>～<3>に記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

<5>

前記内部オレフィンスルホン酸塩は、スルホン酸基の位置が2位であるものを好ましくは6.8質量%以上、より好ましくは8.6質量%以上、更に好ましくは11.3質量%以上、より更に好ましくは13.1質量%以上含み、また、好ましくは24.9質量%以下、より好ましくは24.0質量%以下、更に好ましくは23.1質量%以下、より更に好ましくは22.2質量%以下、より更に好ましくは21.3質量%以下、より更に好ましくは20.4質量%以下、より更に好ましくは19.5質量%以下、より更に好ま

しくは18.6質量%以下含む、＜1＞～＜4＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜6＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩は、炭素鎖の末端に二重結合を有するオレフィンスルホン酸塩を好ましくは0.01質量%以上、より好ましくは0.1質量%以上、更に好ましくは0.5質量%以上、より更に好ましくは1.0質量%以上含む、また、好ましくは10質量%以下、より好ましくは5.3質量%以下、更に好ましくは5.0質量%以下、より更に好ましくは4.7質量%以下、より更に好ましくは4.4質量%以下、より更に好ましくは4.1質量%以下、より更に好ましくは3.7質量%以下、より更に好ましくは3.4質量%以下、より更に好ましくは3.1質量%以下含む、＜1＞～＜5＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜7＞

前記アルカリ剤は、好ましくはアルカリ金属水酸化物、より好ましくは水酸化ナトリウム又は水酸化カリウムである、＜2＞～＜6＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜8＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは1.5mmol以上、より好ましくは2.5mmol以上、更に好ましくは5mmol以上であり、また、好ましくは10mmol以下である、＜2＞～＜7＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜9＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、好ましくは10質量%以上、より好ましくは18質量%以上、更に好ましくは20質量%以上、より更に好ましくは25質量%以上、より更に好ましくは30質量%以上、より更に好ましくは30質量%超、より更

に好ましくは32質量%以上、より更に好ましくは36質量%以上、より更に好ましくは40質量%以上であり、また、好ましくは80質量%以下、より好ましくは70質量%以下である、＜1＞～＜8＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜10＞

好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは1.5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10質量%以上80質量%以下であり、

より好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは2.5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、20質量%以上70質量%以下であり、

更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmolであり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、25質量%以上70質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%以上70質量%以下であり、

0質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%超70質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、32質量%以上70質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、36質量%以上70質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、40質量%以上70質量%以下である、＜2＞～＜7＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜11＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、好ましくは1

7 質量%以上、より好ましくは 2 7 質量%以上であり、また、好ましくは 8 9 質量%以下、より好ましくは 7 9 質量%以下、更に好ましくは 7 4 質量%以下、より更に好ましくは 6 8 質量%以下、より更に好ましくは 5 8 質量%以下である、＜1＞～＜1 0＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜1 2＞

好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、1 0 質量%以上 8 0 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、1 7 質量%以上 8 9 質量%以下であり、

より好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、2 0 質量%以上 7 0 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、2 7 質量%以上 7 9 質量%以下であり、

更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、2 5 質量%以上 7 0 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、2 7 質量%以上 7 4 質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、3 0 質量%以上 7 0 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、2 7 質量%以上 6 8 質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、3 0 質量%超 7 0 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、2 7 質量%以上 5 8 質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、3 2 質量%以上 7 0 質量%以下であり、

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、36質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、40質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下である、＜1＞～＜8＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜13＞

好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは1.5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10質量%以上80質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、17質量%以上89質量%以下であり、

より好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは2.5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、20質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上79質量%以下であり、

更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ

剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、25 質量%以上 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27 質量%以上 74 質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30 質量%以上 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27 質量%以上 68 質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30 質量%超 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27 質量%以上 58 質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、32 質量%以上 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27 質量%以上 58 質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアル

カリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 m o l に対して、好ましくは 5 m m o l 以上 1 0 m m o l 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、3 6 質量%以上 7 0 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、2 7 質量%以上 5 8 質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 m o l に対して、好ましくは 5 m m o l 以上 1 0 m m o l 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、4 0 質量%以上 7 0 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、2 7 質量%以上 5 8 質量%以下である、＜2＞～＜7＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜1 4＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が 1 0 質量%以下である場合、又は前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が 1 0 質量%超であるときには、その含有量が 1 0 質量%になるように水で希釈した場合の 2 5 ℃における p H が、好ましくは 8 . 5 以上、より好ましくは 9 . 0 以上、更に好ましくは 9 . 4 以上、より更に好ましくは 9 . 8 以上であり、また、好ましくは 1 1 . 0 以下、より好ましくは 1 0 . 5 以下である、＜2＞～＜1 3＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜1 5＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、好ましくは緩衝剤を含有する、＜1＞～＜1 4＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜1 6＞

前記緩衝剤は、好ましくは炭酸塩、より好ましくは炭酸ナトリウムである

、＜１５＞に記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜１７＞

前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、好ましくは０．０１質量部以上、より好ましくは０．０５質量部以上、更に好ましくは０．１質量部以上であり、また、好ましくは３．０質量部以下、より好ましくは２．５質量部以下、更に好ましくは２．０質量部以下、より更に好ましくは１．０質量部以下、より更に好ましくは０．５質量部以下である、＜１５＞又は＜１６＞に記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜１８＞

好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは１．５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、１０質量％以上８０質量％以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．０１質量部以上３．０質量部以下であり、

より好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは２．５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、２０質量％以上７０質量％以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．０５質量部以上２．５質量部以下であり、

更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ

剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、25 質量%以上 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 2.0 質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30 質量%以上 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 1.0 質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30 質量%超 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 0.5 質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、32 質量%以上 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、

有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 0.5 質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、36 質量%以上 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 0.5 質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mmol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、40 質量%以上 70 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 0.5 質量部以下である、＜2＞～＜7＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜19＞

好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10 質量%以上 80 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、17 質量%以上 89 質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.01 質量部以上 3.0 質量部以下であり、

より好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、20 質量%以上 70 質量%以下であり、前記

内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上79質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.05質量部以上2.5質量部以下であり、

更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、25質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上74質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上2.0質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上68質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上1.0質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%超70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、32質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、36質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、40質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下である、＜1＞～＜8＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜20＞

好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは1.5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10質量%以上80質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、17質量%以上89質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.01質量部以上3.0質量部以下であり、

より好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは2.5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、20質量%以上7

0質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上79質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.05質量部以上2.5質量部以下であり、

更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、25質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上74質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上2.0質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上68質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上1.0質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン

酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%超70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、32質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、36質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好まし

くは5mmol以上10mmol以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、40質量%以上70質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は緩衝剤を含有し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下である、＜2＞～＜7＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜21＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、好ましくは酸が配合されている、＜1＞～＜20＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜22＞

前記酸は、好ましくはクエン酸、リン酸、ホウ酸、より好ましくはクエン酸である、＜21＞に記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜23＞

前記酸の配合量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、好ましくは10質量部以下、より好ましくは1質量部以下、更に好ましくは0.1質量部以下、より更に好ましくは0.01質量部以下である、＜21＞又は＜22＞に記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜24＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、アニオン界面活性剤及びノニオン界面活性剤から選択される1種以上の界面活性剤を含有する、＜1＞～＜23＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜25＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、ハイドロトロプ剤を含有する、＜1＞～＜24＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜26＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、溶剤を含有する、＜１＞～＜２５＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜２７＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、５０℃で２０日間保存前後の色相変化率が、好ましくは５％以下、より好ましくは３％以下、更に好ましくは２％以下である、＜１＞～＜２６＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。

＜２８＞

内部オレフィンスルホン酸塩及び水を含有する組成物において、

前記組成物中の前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が１０質量％以下である場合には、前記組成物の２５℃におけるｐＨを８．５以上１１．０以下に調整し、

前記組成物中の前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が１０質量％超である場合には、その含有量が１０質量％になるように水で希釈した希釈液の２５℃におけるｐＨが８．５以上１１．０以下になるように前記組成物のｐＨを調整する、内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜２９＞

内部オレフィンスルホン酸塩と、少なくともアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤とを混合して、前記アルカリ剤の含有量が前記内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｍｏｌに対して０．２ｍｍｏｌ以上１５ｍｍｏｌ以下である組成物とする、内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜３０＞

前記内部オレフィンスルホン酸塩の炭素数は、好ましくは１０以上、より好ましくは１２以上、更に好ましくは１４以上、より更に好ましくは１６以上であり、また、好ましくは２４以下、より好ましくは２２以下、更に好ましくは２０以下、より更に好ましくは１８以下である、＜２８＞又は＜２９＞に記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

<31>

前記内部オレフィンスルホン酸塩が、ヒドロキシアルカンスルホン酸塩とオレフィンスルホン酸塩を含む混合物である場合、ヒドロキシアルカンスルホン酸塩の含有量とオレフィンスルホン酸塩の含有量の質量比（ヒドロキシ体／オレフィン体）は、好ましくは40／60～95／5、より好ましくは60／40～90／10、更に好ましくは70／30～88／12、より更に好ましくは75／25～86／14である、<28>～<30>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

<32>

前記内部オレフィンスルホン酸塩は、スルホン酸基の位置が2位であるものを好ましくは6.8質量%以上、より好ましくは8.6質量%以上、更に好ましくは11.3質量%以上、より更に好ましくは13.1質量%以上含み、また、好ましくは24.9質量%以下、より好ましくは24.0質量%以下、更に好ましくは23.1質量%以下、より更に好ましくは22.2質量%以下、より更に好ましくは21.3質量%以下、より更に好ましくは20.4質量%以下、より更に好ましくは19.5質量%以下、より更に好ましくは18.6質量%以下含む、<28>～<31>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

<33>

前記内部オレフィンスルホン酸塩は、炭素鎖の末端に二重結合を有するオレフィンスルホン酸塩を好ましくは0.01質量%以上、より好ましくは0.1質量%以上、更に好ましくは0.5質量%以上、より更に好ましくは1.0質量%以上含み、また、好ましくは10質量%以下、より好ましくは5.3質量%以下、更に好ましくは5.0質量%以下、より更に好ましくは4.7質量%以下、より更に好ましくは4.4質量%以下、より更に好ましくは4.1質量%以下、より更に好ましくは3.7質量%以下、より更に好ましくは3.4質量%以下、より更に好ましくは3.1質量%以下含む、<28>～<32>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法

。

< 3 4 >

前記アルカリ剤は、好ましくはアルカリ金属水酸化物、より好ましくは水酸化ナトリウム又は水酸化カリウムである、< 2 9 > ~ < 3 3 > のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

< 3 5 >

前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 m o l に対して、好ましくは 1 . 5 m m o l 以上、より好ましくは 2 . 5 m m o l 以上、更に好ましくは 5 m m o l 以上であり、また、好ましくは 9 . 8 m m o l 以下である、< 2 9 > ~ < 3 4 > のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

< 3 6 >

前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、好ましくは 1 0 質量%以上、より好ましくは 1 8 質量%以上、更に好ましくは 2 0 質量%以上、より更に好ましくは 2 5 質量%以上、より更に好ましくは 3 0 質量%以上、より更に好ましくは 3 0 質量%超、より更に好ましくは 3 2 質量%以上、より更に好ましくは 3 6 質量%以上、より更に好ましくは 4 0 質量%以上であり、また、好ましくは 8 0 質量%以下、より好ましくは 7 0 質量%以下である、< 2 8 > ~ < 3 5 > のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

< 3 7 >

好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 m o l に対して、好ましくは 1 . 5 m m o l 以上 1 0 m m o l 以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、1 0 質量%以上 8 0 質量%以下であり、

より好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類

金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは２．５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、２０質量％以上７０質量％以下であり、

更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、２５質量％以上７０質量％以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、３０質量％以上７０質量％以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、３０質量％超７０質量％以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、３２質量％以上７０質量％以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、

36質量%以上70質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、40質量%以上70質量%以下である、＜29＞～＜34＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜38＞

前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、好ましくは17質量%以上、より好ましくは27質量%以上であり、また、好ましくは89質量%以下、より好ましくは79質量%以下、更に好ましくは74質量%以下、より更に好ましくは68質量%以下、より更に好ましくは58質量%以下である、＜29＞～＜37＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜39＞

好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10質量%以上80質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、17質量%以上89質量%以下であり、

より好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、20質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上79質量%以下であり、

更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、25質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上74質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上68質量%以下であり、

、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%超70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、32質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、

、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、36質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、

、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、40質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下である、 $\langle 29 \rangle \sim \langle 35 \rangle$ のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

$\langle 40 \rangle$

好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは1.5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10質量%以上80質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、17質量%以上89質量%以下であり、

より好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは2.5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、20質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、

前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上79質量%以下であり、

更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、25質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上74質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上68質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%超70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、32質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol

○ l 以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、36質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、40質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下である、<29>~<34>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

<41>

前記組成物は、内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%以下である場合、又は前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%超であるときには、その含有量が10質量%になるように水で希釈した場合（水で希釈した希釈液）の25℃におけるpHが、好ましくは8.5以上、より好ましくは9.0以上、更に好ましくは9.4以上、より更に好ましくは9.8以上であり、また、好ましくは11.0以下、より好ましくは10.5以下である、<29>~<40>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

<42>

前記組成物に、さらに緩衝剤を混合する、<28>~<41>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

<43>

前記緩衝剤は、好ましくは炭酸塩、より好ましくは炭酸ナトリウムである、<42>に記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

<44>

前記組成物中の前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩10

0質量部に対して、好ましくは0.01質量部以上、より好ましくは0.05質量部以上、更に好ましくは0.1質量部以上であり、また、好ましくは3.0質量部以下、より好ましくは2.5質量部以下、更に好ましくは2.0質量部以下、より更に好ましくは1.0質量部以下、より更に好ましくは0.5質量部以下である、＜42＞又は＜43＞に記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜45＞

好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1molに対して、好ましくは1.5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10質量%以上80質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.01質量部以上3.0質量部以下であり、

より好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1molに対して、好ましくは2.5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、20質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.05質量部以上2.5質量部以下であり、

更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1molに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、25質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上2.0質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、３０質量％以上７０質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．１質量部以上１．０質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、３０質量％超７０質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．１質量部以上０．５質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、３２質量％以上７０質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．１質量部以上０．５質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、３６質量％以上７０質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．１質量部以上０．５質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、４０質量％以上７０質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．１質量部以上０．５質量部以下である、＜２９＞～＜３４＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜４６＞

好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、１０質量％以上８０質量％以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、１７質量％以上８９質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．０１質量部以上３．０質量部以下であり、

より好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、２０質量％以上７０質量％以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、２７質量％以上７９質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．０５質量部以上２．５質量部以下であり、

更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、２５質量％以上７０質量％以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、２７質量％以上７４質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．１質量部以上２．０質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有

量は、30質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上68質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上1.0質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30質量%超70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、32質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、36質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0.5質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、40質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上58質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.1質量部以上0

、5質量部以下である、＜29＞～＜35＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜47＞

好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは1.5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10質量%以上80質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、17質量%以上89質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.01質量部以上3.0質量部以下であり、

より好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは2.5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、20質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上79質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して、0.05質量部以上2.5質量部以下であり、

更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して、好ましくは5mmol以上10mmol以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、25質量%以上70質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27質量%以上74質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレ

フィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 2.0 質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30 質量%以上 70 質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27 質量%以上 68 質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 1.0 質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、30 質量%超 70 質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27 質量%以上 58 質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 0.5 質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 1 mol に対して、好ましくは 5 mmol 以上 10 mmol 以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、32 質量%以上 70 質量%以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、27 質量%以上 58 質量%以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して、0.1 質量部以上 0.5 質

量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、３６質量％以上７０質量％以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、２７質量％以上５８質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．１質量部以上０．５質量部以下であり、

より更に好ましくは、前記組成物中のアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる１種以上のアルカリ剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１ｍｏｌに対して、好ましくは５ｍｍｏｌ以上１０ｍｍｏｌ以下であり、前記組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、４０質量％以上７０質量％以下であり、前記組成物に、さらに水を混合し、前記組成物中の水の含有量は、２７質量％以上５８質量％以下であり、前記組成物に、さらに緩衝剤を混合し、前記組成物中の緩衝剤の含有量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、０．１質量部以上０．５質量部以下である、＜２９＞～＜３４＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜４８＞

前記組成物に、さらに酸を混合する、＜２８＞～＜４７＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜４９＞

前記酸は、好ましくはクエン酸、リン酸、ホウ酸、より好ましくはクエン酸である、＜４８＞に記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜５０＞

前記酸の配合量は、内部オレフィンスルホン酸塩１００質量部に対して、

好ましくは10質量部以下、より好ましくは1質量部以下、更に好ましくは0.1質量部以下、より更に好ましくは0.01質量部以下である、＜48＞又は＜49＞に記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜51＞

前記組成物に、さらにアニオン界面活性剤及びノニオン界面活性剤から選択される1種以上の界面活性剤を混合する、＜28＞～＜50＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜52＞

前記組成物に、さらにハイドロトロブ剤を混合する、＜28＞～＜51＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜53＞

前記組成物に、さらに溶剤を混合する、＜28＞～＜52＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

＜54＞

＜1＞～＜27＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を含有する、硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤。

＜55＞

＜1＞～＜27＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を配合してなる、硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤。

＜56＞

さらに、前記内部オレフィンスルホン酸塩以外の界面活性剤と、香料、防腐剤、抗菌剤、pH調整剤（クエン酸など）、及び多価陽イオンから選択される1種以上の補助剤とを含有する、＜54＞又は＜55＞に記載の硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤。

＜57＞

前記硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤中の界面活性剤（前記内部オレフィンスルホン酸塩を含む）の含有量は、好ましくは0.5質量%以上、より好ましくは15質量%以上であり、また、好ましくは60質量

%以下、より好ましくは30質量%以下である、＜56＞に記載の硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤。

＜58＞

前記硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤中のpH調整剤（クエン酸など）の含有量は、好ましくは0.001質量%以上であり、また、好ましくは8質量%以下、より好ましくは5質量%以下である、＜56＞又は＜57＞に記載の硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤。

＜59＞

＜1＞～＜27＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を含有する、衣料用洗浄剤。

＜60＞

＜1＞～＜27＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を配合してなる、衣料用洗浄剤。

＜61＞

さらに、酵素を含有する、＜59＞又は＜60＞に記載の衣料用洗浄剤。

＜62＞

＜1＞～＜27＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を含有する、衣料用処理剤。

＜63＞

＜1＞～＜27＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を配合してなる、衣料用処理剤。

＜64＞

さらに、親水性溶剤及び消泡剤から選択される1種以上の補助剤を含有する、＜62＞又は＜63＞に記載の衣料用処理剤。

＜65＞

＜1＞～＜27＞のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を含有する、衣料用柔軟剤。

＜66＞

<1>～<27>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を配合してなる、衣料用柔軟剤。

<67>

さらに、シリコンを含有する、<65>又は<66>に記載の衣料用柔軟剤。

<68>

<1>～<27>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を含有する、身体用洗浄剤。

<69>

<1>～<27>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を配合してなる、身体用洗浄剤。

<70>

<1>～<27>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を含有する、毛髪用洗浄剤。

<71>

<1>～<27>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を配合してなる、毛髪用洗浄剤。

<72>

<1>～<27>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物の硬質表面洗浄剤、住居用洗浄剤又は食器用洗浄剤の製造のための使用。

<73>

<1>～<27>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物の衣料用洗浄剤の製造のための使用。

<74>

<1>～<27>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物の衣料用処理剤の製造のための使用。

<75>

<1>～<27>のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物

の衣料用柔軟剤の製造のための使用。

< 7 6 >

< 1 > ~ < 2 7 > のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物の身体用洗浄剤の製造のための使用。

< 7 7 >

< 1 > ~ < 2 7 > のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物の毛髪用洗浄剤の製造のための使用。

< 7 8 >

プラスチック、ガラス、陶器、ステンレス、木、スポンジ、まな板、調理台、テーブル又は椅子の洗浄に、好ましくは着色や匂い等が課題となる硬質表面の洗浄に、より好ましくはプラスチック、ガラス、陶器、スポンジ、まな板、調理台、テーブル又は椅子の洗浄に用いられる< 5 4 > ~ < 5 8 > のいずれかに記載の硬質表面洗浄剤又は食器用洗浄剤。

< 7 9 >

プラスチック、ガラス、陶器、ステンレス、木、スポンジ、まな板、調理台、テーブル又は椅子の洗浄に、好ましくは着色や匂い等が課題となる硬質表面の洗浄に、より好ましくはプラスチック、ガラス、陶器、スポンジ、まな板、調理台、テーブル又は椅子の洗浄に用いられる< 7 2 > に記載の硬質表面洗浄剤又は食器用洗浄剤の製造のための使用。

< 8 0 >

プラスチック、ガラス、陶器、ステンレス、木、紙、皮、ゴム、壁、フローリング、浴槽、洗面台、便器又は窓の洗浄に、好ましくは着色や匂い等が課題となる硬質表面の洗浄に、より好ましくはプラスチック、ガラス、陶器、紙、壁、フローリング、浴槽又は便器の洗浄に用いられる< 5 4 > ~ < 5 8 > のいずれかに記載の硬質表面洗浄剤又は住居用洗浄剤。

< 8 1 >

プラスチック、ガラス、陶器、ステンレス、木、紙、皮、ゴム、壁、フローリング、浴槽、洗面台、便器又は窓の洗浄に、好ましくは着色や匂い等が

課題となる硬質表面の洗浄に、より好ましくはプラスチック、ガラス、陶器、紙、壁、フローリング、浴槽又は便器の洗浄に用いられる<72>に記載の硬質表面洗浄剤又は住居用洗浄剤の製造のための使用。

実施例

[0070] 以下、本発明について、実施例に基づき具体的に説明する。なお、以下の実施例及び比較例において、特記しない限り、「%」は「質量%」を意味する。また、各種物性の測定法は以下のとおりである。

[0071] <内部オレフィンの二重結合分布の測定方法>

内部オレフィンの二重結合位置は、ガスクロマトグラフィー（以下、GCと省略）により測定した。具体的には、内部オレフィンに対しジメチルジスルフィドを反応させることでジチオ化誘導体とした後、各成分をGCで分離した。それぞれのピーク面積より内部オレフィンの二重結合位置を求めた。なお、測定に使用した装置および測定条件は、以下の通りである。

GC装置：HP 6890（HEWLETT PACKARD社製）

カラム：Ultra-Altory-1HTキャピラリーカラム、30m×250μm×0.15μm（フロンティア・ラボ株式会社製）

検出器：水素炎イオン検出器（FID）

インジェクション温度：300℃

ディテクター温度：350℃

He流量：4.6mL/分

[0072] <スルホン酸基が2位に存在する内部オレフィンスルホン酸塩の含有量の測定方法>

スルホン酸基の結合位置は、GCにより測定した。具体的には、内部オレフィンスルホン酸塩に対しトリメチルシリルジアゾメタンを反応させることでメチルエステル化誘導体とした後、各成分をGCで分離した。それぞれのピーク面積比を質量比として、スルホン酸基が2位に存在する内部オレフィンスルホン酸塩の含有量を算出した。なお、測定に使用した装置および分析条件は次の通りである。

GC装置：アジレントテクノロジー6850（アジレントテクノロジー社製）

カラム：HP-1キャピラリーカラム、30m×320μm×0.25μm（アジレントテクノロジー社製）

検出器：水素炎イオン検出器（FID）

インジェクション温度：300℃

ディテクター温度：300℃

He流量：1.0mL/min.

オープン：60℃（0分）→10℃/分→300℃（10分）

[0073] <ヒドロキシ体／オレフィン体の質量比の測定方法>

内部オレフィンスルホン酸塩のヒドロキシ体／オレフィン体の質量比は、HPLC-MSにより測定した。具体的には、HPLCによりヒドロキシ体とオレフィン体を分離し、それぞれをMSにかけることで同定した。結果、そのHPLC-MSピーク面積から各々の割合を求めた。なお、測定に使用した装置および条件は次の通りである。

HPLC装置：アジレントテクノロジー1100（アジレントテクノロジー社製）

カラム：L-column ODS 4.6×150mm（一般財団法人化学物質評価研究機構製）

サンプル調製：メタノールで1000倍希釈

溶離液A：10mM酢酸アンモニウム添加水

溶離液B：10mM酢酸アンモニウム添加メタノール

グラジェント：0分（A/B=30/70%）→10分（30/70%）→55分（0/100%）→65分（0/100%）→66分（30/70%）→75分（30/70%）、MS装置：アジレントテクノロジー1100 MS SL（G1946D）

MS検出：陰イオン検出 m/z 60-1600、UV240nm

[0074] <組成分析>

実施例及び比較例で調製した内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、下記の流動電位法により求めた。水酸化カリウム又は水酸化ナトリウムの含有量は、下記のHClによる中和滴定により求めた。炭酸ナトリウム及びクエン酸の含有量は添加量より算出した。

[0075] <流動電位法>

試料をメスフラスコに適量（1 g 程度を小数点以下3桁の精度で）量り取り、イオン交換水を加えて全量を200 mlとし、この試料溶液10 mlをさらにイオン交換水で希釈した溶液を電位差滴定装置（京都電子工業株式会社、電位差自動滴定装置）を用いて滴定を行った。滴定液としては0.004 mol/L塩化ベンゼトニウム溶液を用い、試料溶液の電位がゼロになったときの滴定量を読み取った。試料中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は以下の式により求めた。

内部オレフィンスルホン酸塩の含有量（%）＝{（0.004 × f × b × 分子量）／（a × 10／200 × 1000）} × 100

a：試料採取量（g）

b：塩化ベンゼトニウム溶液使用量（ml）

f：塩化ベンゼトニウム溶液のファクター

[0076] <中和滴定>

試料を適量（5 g 程度を小数点以下3桁の精度で）量り取り、イオン交換水で希釈した溶液に1%フェノールフタレインエタノール溶液を0.05 g 程度加えて赤色に呈色させた。試料溶液を1／10Nの塩酸により滴定し、赤色に呈色しなくなったときの滴定量を読み取った。試料中の水酸化カリウム又は水酸化ナトリウムの含有量は以下の式により求めた。

水酸化カリウム又は水酸化ナトリウムの含有量（%）＝{（1／10 × f × d × M）／（c × 1000）} × 100

c：試料採取量（g）

d：1／10N塩酸使用量（ml）

$f : 1 / 10$ N塩酸のファクター

M : 水酸化ナトリウム又は水酸化カリウムの分子量

なお、フェノールフタレインの呈色しない領域（pH 8.3未満）については、以下の方法により求めた。横軸に試料中の水酸化カリウム又は水酸化ナトリウムの含有量、縦軸にpHをとったとき、pH 7から8.3までのこれらの関係を近似的に直線関係とみなして立てた以下の式により、実測したpHの値から試料中の水酸化カリウム又は水酸化ナトリウムの含有量を算出した。

$$\text{水酸化カリウム又は水酸化ナトリウムの含有量 (\%)} = ((\text{実測した pH}) - 7) / 1010.1$$

[0077] <内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%になるように水で調整した場合のpHの測定方法>

pH標準液で校正したpH計（株式会社堀場製作所、pHメータ D-51）を用いて測定を行った。内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%になるように、内部オレフィンスルホン酸塩組成物を水（イオン交換水）で希釈し、得られた希釈液を25℃に調整した後、希釈液中にpH計のpHガラス電極を浸けて表示が安定したところを読み取った。

[0078] <内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%以下である場合のpHの測定方法>

pH標準液で校正したpH計（株式会社堀場製作所、pHメータ D-51）を用いて測定を行った。内部オレフィンスルホン酸塩組成物を25℃に調整した後、pH計のpHガラス電極を浸けて表示が安定したところを読み取った。

[0079] <緩衝剤の含有量の測定方法>

内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の緩衝剤（炭酸ナトリウム等）の含有量は、イオンクロマトグラフィーにより測定することができる。なお、測定には次の装置及び条件を用いることができる。

イオンクロマトグラフィー装置 : Dionex ICS-2100、Dio

nex AS-AP (Thermo Fisher Scientific 株式会社製)

カラム: Dionex IonPac AS11-HC (Thermo Fisher Scientific 株式会社製)

溶離液: EGC III KOH (Thermo Fisher Scientific 株式会社製)

サプレッサー: Dionex AERS 500 (Thermo Fisher Scientific 株式会社製)

[0080] <保存安定性の評価>

内部オレフィンスルホン酸塩組成物を槽内の温度が一定に制御できる恒温槽内にて50℃で20日間静置させた。製造直後、及び静置20日後のそれぞれについて色相と匂いを以下の方法に従って測定した。

(1) 色相

内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%になるように、内部オレフィンスルホン酸塩組成物を水(イオン交換水)で希釈して希釈液(50 mL)を得た。その後、希釈液をリン酸を用いてpH7.0±0.1に調整して試料溶液を得た。そして、試料溶液を10 mmガラスセルに入れて、水(イオン交換水)を対照に分光光度計を用いて波長420 nmの吸光度を測定した。得られた測定値を1000倍した値を10%クレットナンバーとした。製造直後の値をA、及び静置20日後の値をBとしたときの色相変化率(%)を下記計算式にて算出した。色相の安定性の観点から、色相変化率の絶対値が小さいことが好ましい。

$$\text{色相変化率}(\%) = 100 \times (B - A) / A$$

(2) 匂い

製造直後の内部オレフィンスルホン酸塩組成物の匂いレベルを1として、静置20日後の内部オレフィンスルホン酸塩組成物の匂いレベルがそれと比較してどの程度変化したかを評価した。匂いレベルは下記5段階とし、数値が大きいほど強い匂いであることを意味する。匂い評価は研究員6名で行い

、それぞれの評価結果の平均値を四捨五入し、数字一桁で表した。静置20日後の匂いレベルは1であることが好ましいが、レベル2、3も許容できる。

- 1：製造直後と比較して、匂いは同等又は弱い
- 2：製造直後と比較して、匂いはかすかに強い
- 3：製造直後と比較して、匂いはやや強い
- 4：製造直後と比較して、匂いは強い
- 5：製造直後と比較して、匂いは非常に強い

[0081] 製造例A

(炭素数16の内部オレフィンの作製)

攪拌装置付きフラスコに1-ヘキサデカノール(製品名:カルコール6098、花王株式会社製)7000g(28.9モル)、固体酸触媒としてγ-アルミナ(STREMCHEMICALS, Inc社)700g(原料アルコールに対して10wt%)を仕込み、攪拌下、280℃にて系内に窒素(7000mL/分)を流通させながら3時間以上反応を行った。反応終了後のアルコール転化率は100%、C16内部オレフィン純度は99.6%であった。得られた粗内部オレフィンを蒸留用フラスコに移し、136~160℃/4.0mmHgで蒸留することでオレフィン純度100%の炭素数16の内部オレフィンを得た。得られた内部オレフィンの二重結合分布は、C1位2.3%、C2位23.6%、C3位18.9%、C4位17.6%、C5位13.6%、C6位11.4%、C7位、8位の合計が7.4%であった。

[0082] 製造例B

(炭素数18の内部オレフィンの作製)

攪拌装置付きフラスコに1-オクタデカノール(製品名:カルコール8098、花王株式会社製)7000g(25.9モル)、固体酸触媒としてγ-アルミナ(STREMCHEMICALS, Inc社)700g(原料アルコールに対して10wt%)を仕込み、攪拌下、280℃にて系内に窒素

(7000 mL/分)を流通させながら10時間以上反応を行った。反応終了後のアルコール転化率は100%、C18内部オレフィン純度は98.2%であった。得られた粗内部オレフィンを蒸留用フラスコに移し、内温148~158℃/0.5 mmHgで蒸留することでオレフィン純度100%の炭素数18の内部オレフィンを得た。得られた内部オレフィンの二重結合分布は、C1位2.2%、C2位27.7%、C3位20.7%、C4位15.5%、C5位10.6%、C6位8.5%、C7位6.6%、C8、9位の合計が4.1%であった。

[0083] 製造例1

(内部オレフィンスルホン酸塩 (C16IOS) の製造方法)

製造例Aで製造した炭素数16の内部オレフィンを、外部にジャケットを有する薄膜式スルホン化反応器に入れ、反応器外部ジャケットに20℃の冷却水を通液する条件下で三酸化硫黄ガスを用いてスルホン化反応を行った。スルホン化反応の際のSO₃/内部オレフィンのモル比は1.005に設定した。得られたスルホン化物を、理論酸価に対し1.05モル倍量の水酸化カリウム(アルカリ剤)で調製したアルカリ水溶液と混合し、連続法にて30℃で、1時間中和した。中和物をオートクレーブ中で170℃にて、1時間加熱することで加水分解を行い、炭素数16の内部オレフィンスルホン酸カリウムを得た。得られた内部オレフィンスルホン酸カリウム中のスルホン酸基が2位に存在する内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は14.9%、炭素鎖の末端に二重結合を有するオレフィンスルホン酸塩の含有量は1.1%、ヒドロキシ体(ヒドロキシアルカンスルホン酸カリウム)/オレフィン体(オレフィンスルホン酸カリウム)の質量比は84/16であった。また、得られた内部オレフィンスルホン酸カリウム中に含有される原料内部オレフィンの含有量は0.5%、無機化合物は1.2%であった。

[0084] 製造例2

(内部オレフィンスルホン酸塩 (C18IOS) の製造方法)

製造例Bで製造した炭素数18の内部オレフィンを用いた以外は、製造例

1と同様の条件で、炭素数18の内部オレフィンスルホン酸カリウムを得た。得られた内部オレフィンスルホン酸カリウム中のスルホン酸基が2位に存在する内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は17.7%、炭素鎖の末端に二重結合を有するオレフィンスルホン酸塩の含有量は1.0%、ヒドロキシ体／オレフィン体の質量比は80／20であった。また、得られた内部オレフィンスルホン酸カリウム中に含有される原料内部オレフィンの含有量は1.0%、無機化合物は1.2%であった。

[0085] 製造例3

(内部オレフィンスルホン酸塩 (C16／C18IOS) の製造方法)

製造例Aで製造した炭素数16の内部オレフィンと、製造例Bで製造した炭素数18の内部オレフィンを80／20の質量比で混合したC16／C18内部オレフィンを用い、中和剤として水酸化ナトリウム（アルカリ剤）で調製したアルカリ水溶液を用いた以外は、製造例1と同様の条件で、炭素数16と炭素数18の質量比が80／20の内部オレフィンスルホン酸ナトリウムを得た。得られた内部オレフィンスルホン酸ナトリウム中のスルホン酸基が2位に存在する内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は15.5%、炭素鎖の末端に二重結合を有するオレフィンスルホン酸塩の含有量は1.1%、ヒドロキシ体／オレフィン体の質量比は85／15であった。また、得られた内部オレフィンスルホン酸ナトリウム中に含有される原料内部オレフィンの含有量は1.2%、無機化合物は1.4%であった。

[0086] 製造例1～3で得られた内部オレフィンスルホン酸塩は、必要に応じて、濃縮して用いた。

[0087] 実施例1～4、比較例1及び2

製造例1で得られたアルカリ剤を含むC16IOSと水（イオン交換水）とを混合し、緩衝剤として内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して0.15質量部の炭酸ナトリウムを加え、さらにクエン酸を適量加えてアルカリ剤の含有量とpHを調整し、表1に記載の組成の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を調製した。

[0088] 実施例 5 ～ 6、比較例 3 及び 4

製造例 2 で得られたアルカリ剤を含む C 1 8 I O S と水（イオン交換水）とを混合し、緩衝剤として内部オレフィンスルホン酸塩 1 0 0 質量部に対して 0. 1 5 質量部の炭酸ナトリウムを加え、さらにクエン酸を適量加えてアルカリ剤の含有量と pH を調整し、表 1 に記載の組成の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を調製した。

[0089] 実施例 7 ～ 9、比較例 5 ～ 7

製造例 3 で得られたアルカリ剤を含む C 1 6 / 1 8 I O S と水（イオン交換水）とを混合し、緩衝剤として内部オレフィンスルホン酸塩 1 0 0 質量部に対して 0. 1 5 質量部の炭酸ナトリウムを加え、さらにクエン酸を適量加えてアルカリ剤の含有量と pH を調整し、表 1 に記載の組成の内部オレフィンスルホン酸塩組成物を調製した。

[0090]

[表1]

		C16/C18=100/0						C16/C18=0/100						C16/C18=80/20					
		実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	比較例1	比較例2	実施例5	実施例6	比較例3	比較例4	実施例7	実施例8	実施例9	比較例5	比較例6	比較例7		
組成物	組成「質量%」	内節オレフィンスルホン酸塩	59	59	59	59	59	51	51	51	51	66	66	33	66	66	66		
		アルカリ剤(KOH又はNaOH)	0.002	0.02	0.09	0.13	0	0.42	0.01	0.07	0.0007	0.21	0.07	0.10	0.07	0	0.001	0.34	
		炭酸ナトリウム	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.1	0.1	0.05	0.1	0.1	0.1	0.1	
		クエン酸	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	調整量	
		水	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	
	合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
評価	内節オレフィンスルホン酸塩1mol に対するアルカリ剤の含有量(mmol)		0.2	2	10	15	0	45		28		6	9.7	14	0	0.1	33		
		25℃におけるpH	8.6	9.0	10.5	10.8	5.9	11.8	9.0	10.5	7.7	11.6	10.0	10.5	11.0	7.0	8.0	11.7	
	色相変化率(%)	5.0	3.0	1.9	4.9	67.5	8.5	3.2	1.6	22.2	11.1	1.3	1.3	4.9	28.4	8.3	14.0		
	匂いレベル	2	1	1	1	5	4	1	1	5	4	1	1	2	5	4	4		

[0091] 表1から明らかなように、アルカリ剤の含有量が、内部オレフィンスルホン酸塩1 molに対して0.2 mmol以上15 mmol以下である実施例

1～9の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、アルカリ剤の含有量が前記範囲外である比較例1～7の内部オレフィンスルホン酸塩組成物に比べて、色相変化率及び匂いレベルの値が小さく、長期間保存した場合でも色相と匂いに変化しにくく、安定性に優れるものであることがわかる。また、25℃におけるpHが8.5以上11.0以下である実施例1～9の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、25℃におけるpHが前記範囲外である比較例1～7の内部オレフィンスルホン酸塩組成物に比べて、色相変化率及び匂いレベルの値が小さく、長期間保存した場合でも色相と匂いに変化しにくく、安定性に優れるものであることがわかる。

産業上の利用可能性

[0092] 本発明の内部オレフィンスルホン酸塩組成物は、各種洗浄剤の基剤として有用である。

請求の範囲

- [請求項1] 内部オレフィンスルホン酸塩及び水を含有し、前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%以下である場合、又は前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%超であるときには、その含有量が10質量%になるように水で調整した場合の25℃におけるpHが、8.5以上11.0以下である、内部オレフィンスルホン酸塩組成物。
- [請求項2] 内部オレフィンスルホン酸塩、アルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる1種以上のアルカリ剤、及び水を含有し、前記アルカリ剤の含有量が、前記内部オレフィンスルホン酸塩1mmolに対して0.2mmol以上15mmol以下である、内部オレフィンスルホン酸塩組成物。
- [請求項3] さらに、緩衝剤を含有する、請求項1又は2に記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。
- [請求項4] 前記緩衝剤の含有量が、前記内部オレフィンスルホン酸塩100質量部に対して0.01質量部以上3.0質量部以下である、請求項3に記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。
- [請求項5] さらに、酸が配合された、請求項1～4のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。
- [請求項6] 内部オレフィンスルホン酸塩組成物中の内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10質量%以上80質量%以下である、請求項1～5のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。
- [請求項7] 前記内部オレフィンスルホン酸塩の炭素数は、10以上24以下である、請求項1～6のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩組成物。
- [請求項8] 内部オレフィンスルホン酸塩及び水を含有する組成物において、
前記組成物中の前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が10質量%以下である場合には、前記組成物の25℃におけるpHを8.5

以上 11.0 以下に調整し、

前記組成物中の前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量が 10 質量%超である場合には、その含有量が 10 質量%になるように水で希釈した希釈液の 25℃における pH が 8.5 以上 11.0 以下になるように前記組成物の pH を調整する、内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

[請求項9] 内部オレフィンスルホン酸塩と、少なくともアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物から選ばれる 1 種以上のアルカリ剤とを混合して、前記アルカリ剤の含有量が前記内部オレフィンスルホン酸塩 1 mol に対して 0.2 mol 以上 1.5 mol 以下である組成物とする、内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

[請求項10] 前記組成物に、さらに緩衝剤を混合する、請求項 8 又は 9 に記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

[請求項11] 前記組成物中の前記緩衝剤の含有量が、前記内部オレフィンスルホン酸塩 100 質量部に対して 0.01 質量部以上 3.0 質量部以下である、請求項 10 に記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

[請求項12] 前記組成物中に、さらに酸を混合する、請求項 8～11 のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

[請求項13] 前記組成物中の前記内部オレフィンスルホン酸塩の含有量は、10 質量%以上 80 質量%以下である、請求項 8～12 のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

[請求項14] 前記内部オレフィンスルホン酸塩の炭素数は、10 以上 24 以下である、請求項 8～13 のいずれかに記載の内部オレフィンスルホン酸塩の保存方法。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/038284

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl. C11D1/14(2006.01)i, A61K8/46(2006.01)i, A61Q5/02(2006.01)i, A61Q19/10(2006.01)i, C07C303/42(2006.01)i, C07C309/20(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl. C11D1/14, A61K8/46, A61Q5/02, A61Q19/10, C07C303/42, C07C309/20

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2018
Registered utility model specifications of Japan	1996-2018
Published registered utility model applications of Japan	1994-2018

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 3-126793 A (UNILEVER NV) 29 May 1991, page 7, lower right column, lines 1-4, table 2, page 5, lower right column, first paragraph, second paragraph & GB 2236538 A, page 3, lines 2-5, page 9, lines 1-19, page 11, lines 18-24, page 14, lines 1-7, table 2 & CA 2026746 A1 & KR 10-1995-0005380 B	1-14
X	EP 0377261 A2 (SHELL INTERNATIONALE RESEARCH MAATSCHAPPIJ B.V.) 11 July 1990, formulation no. 11, page 4, line 5, examples & US 5078916 A & GB 8900023 A	1-14



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
05.11.2018

Date of mailing of the international search report
20.11.2018

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/038284

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 49-41179 B1 (LION FAT AND OIL CO., LTD.) 07 November 1974, example 1, column 6, line 28, column 14, lines 25, 26 (Family: none)	1-14
A	JP 7-507818 A (THE PROCTER & GAMBLE COMPANY) 31 August 1995, page 5, lower left column & JP 2003-147390 A & US 5529722 A, column 5, lines 15-25 & WO 1993/018123 A1 & EP 560001 A1	1-14
A	JP 2012-007155 A (KAO CORPORATION) 12 January 2012, examples (Family: none)	1-14

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl. C11D1/14(2006.01)i, A61K8/46(2006.01)i, A61Q5/02(2006.01)i, A61Q19/10(2006.01)i, C07C303/42(2006.01)i, C07C309/20(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl. C11D1/14, A61K8/46, A61Q5/02, A61Q19/10, C07C303/42, C07C309/20

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2018年
日本国実用新案登録公報	1996-2018年
日本国登録実用新案公報	1994-2018年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 3-126793 A (ユニリーバー・ナームローゼ・ベンノートシヤープ) 1991.05.29, p.7 右下欄1~4行目、表2、p.5 右下欄第1~2段落 & GB 2236538 A(p.3 1.2-5, p.9 1.1-19, p.11 1.18-24, p.14 1.1-7, TABLE 2) & CA 2026746 A1 & KR 10-1995-0005380 B	1-14
X	EP 0377261 A2 (SHELL INTERNATIONALE RESEARCH MAATSCHAPPIJ B.V.) 1990.07.11, Formulation No.11, p.4 line 5, examples & US 5078916 A & GB 8900023 A	1-14

☑ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

05.11.2018

国際調査報告の発送日

20.11.2018

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号 100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

緒形 友美

4 V

5280

電話番号 03-3581-1101 内線 3483

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 49-41179 B1 (ライオン油脂株式会社) 1974. 11. 07, 実施例 1, 第 6 欄 28 行目, 第 1 4 欄 25-26 行目 (ファミリーなし)	1-14
A	JP 7-507818 A (ザ、プロクター、エンド、ギャンブル、カンパニー) 1995. 08. 31, p. 5 左下欄 & JP 2003-147390 A & US 5529722 A (column 5 1. 15-25) & WO 1993/018123 A1 & EP 560001 A1	1-14
A	JP 2012-007155 A (花王株式会社) 2012. 01. 12, 実施例 (ファミリーなし)	1-14